

1 学習の到達目標

1. 世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
2. 世界史の大きな枠組みと流れを、日本を含む諸地域の歴史と関連付けて理解させる。
3. 主題学習を通して客観的で公正なものを見方を育成するとともに、広い視野から歴史を考察させる。

使用教科書 帝国書院 『新詳世界史B』

副教材 第一学習社 『グローバルワイド 最新世界史図表』

2 学習計画及び評価方法

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい・目標	備考(学習活動の特記事項、他教科、総合的な学習の時間・特別活動との関連など)	考查範囲
一 学 期	世界史への扉 第1部 序章～第1章 ・ 人類の出現 ・ 古代世界と地中海世界の形成 第1章～3章 ・ 古代世界と地中海世界の形成 ・ 南アジアの形成 ・ 東南アジアの形成 第4章～7章 ・ 東アジアのあけぼの ・ 中央ユーラシア世界の形成と展開 ・ 東アジア世界の変動と再編 ・ イスラーム世界の形成と拡大 第8章～10章 ・ ヨーロッパ世界の形成 ・ ユーラシア大帝国の出現 ・ ユーラシア・アフリカの海の世界	4	歴史に関する関心と意欲を高めさせる。 人類の誕生と、文明のはじまりについて理解させる。 の興亡と古代オリエント世界について理解させる。 5 ギリシア人の活動を中心に、西アジア・地中海世界の特質を理解させる。ローマ帝国により地中海世界が形成されたことを把握させる。 南アジア世界の形成過程を把握させる。東南アジアが南アジア文明や中華文明の影響をうけながら国家を誕生させたことを把握させる。 6 東アジア・内陸アジア世界の形成過程を中華文明と遊牧国家の動向を中心に把握させる。 地中海世界が解体しヨーロッパが形成されていく過程を把握させる(ゲルマン諸国家の形成)。教皇権の盛衰と王権の伸張について理解させる。 7 イスラーム世界がユーラシアの交易ネットワークに沿って拡大した過程を把握させる。イスラーム世界がヨーロッパや東アジアの文明にも影響を与えていることを把握させる。 ヒンドゥー教的社会秩序の形成と、東南アジア地域におけるイスラーム化の進行について把握させる。	・主題学習 ・ギリシア・ローマの文化史については美術の授業と連携をとる。 ・ユダヤ教、キリスト教については倫理の授業と連携をとる。 ・ヒンドゥー教・仏教については倫理の授業と連携をとる。 ・漢文の授業と連携をとる。 ・日本史の授業と連携をとる。	第一 学期 考 査
	第2部：第1章～2章 ・ アジア諸地域の栄華と成熟 ・ 大規模な分業体制の成立	9	東アジアでは、「隋」「唐」によって漢民族の伝統を受け継ぐ中華帝国が復活。1300年以上の発展を続けた。その要因と、その周辺諸国への影響について理解させる。 モンゴル帝国によるユーラシア全域にまたがる交易圏が形成されたことを理解させる。	・海上交通や貿易については、琉球史の視点からも触れる。 ・元と日本の関係については、日本史の授業と連携をとる。	

学期	学習内容	月	学習のねらい・目標	備考(学習活動の特記事項、他教科、総合的な学習の時間・特別活動との関連など)	考查範囲
二 学 期	第3～5章 ・西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制の拡大 ・環大西洋革命 ・イギリスの覇権と欧米国民国家の建設 第6章 ・世界の一体化の進展とアジアの変容 第3部：第1章 ・世界の一体化の完成とその影響 第1章～2章 ・世界の一体化の完成とその影響 ・世界大戦の時代	10	会の成熟期を迎えたことを理解させる この時期の日本の動向を東アジア世界の中で位置付けて理解させる。 東南アジアでは港市国家が発達し、東西貿易で繁栄したことを把握させる。	・日本の動向については日本史の授業と連携をとる。 ・ルネサンスについては美術の授業と連携をとる。 ・宗教改革については倫理の授業と連携をとる。 ・主権国家体制については政治・経済の授業との連携をとる。 ・アメリカ独立宣言や人権宣言については政治経済の授業と連携をとる。 ・19世紀の文化については美術・現代文・理科倫理・政治経済などの授業と連携をとる。	第二学期考查
		11	大航海時代を契機にユーラシア規模から地球規模の交流に拡大したことを理解させる。 16世紀から18世紀のヨーロッパでは主権国家体制が築かれたことを理解させる。 三角貿易を扱い大西洋世界に西ヨーロッパを中心とする国際分業体制が形成されたことを理解させる。		
		12	イギリス産業革命の世界的背景やその展開を通して資本主義の確立を理解させる。 ヨーロッパとアメリカの世界的背景やその展開を通して資本主義の確立を理解させる。 自由主義・国民主義が発展し19世紀後半にはドイツ・イタリアなどで国民国家形成が促されたことを理解させる。 アメリカ合衆国における西部開拓、南北戦争に至る状況、その後の発展を人種問題を含めて理解させる。		
三 学 期	第3章～4章 ・東西冷戦から多極的国際社会へ ・相互依存を深める世界 第5章 ・未来へ向けて	1	二つの世界大戦の総力戦としての様相、社会主義・全体主義の台頭に着目し、大衆社会の出現について理解させる。	・明治維新以降の日本の動向については日本史の授業と連携をとる。 ・日本の欧化政策については日本史の授業と連携をとる。 ・日中戦争・太平洋戦争時の日本の動向については日本史の授業と連携をとる。 ・大戦後の日本の動向については日本史の授業と連携をとる。 ・現代の政治・経済体制については政治経済の授業と連携をとる。 ・主題学習 ・政治・経済の授業と連携をとる。	第三学期考查
		2	米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国の台頭により自由主義圏、社会主義圏、第3勢力の各陣営の結束強化と相互の対立を軸に、冷戦期の世界の動向を理解させる。 市場経済のグローバル化、冷戦の終結とソヴィエトの崩壊などにより、地球社会という相互依存の社会が到来したことを理解させる。		
		3	核兵器問題、人種・民族問題、国際紛争・地域紛争などの国際問題に題する主題学習を通して国際協調の意義と課題を考察させる。 情報化と先端技術、環境問題などに関する主題学習を通して化学技術や現代文明について考察させる。		
【課題・提出物等】 レポート、ワークシート、課題プリント					
【第2学年の評価方法】 考查評価、課題学習、課題プリントの取り組み状況などの割合評価					